

【事例 3】

第 2 章 レセプト病名と治療内容の関連づけ

レセプト病名と治療内容の関連づけの試み

—「糖尿病重症化予防プログラム」の取り組み—

（全国健康保険協会（協会けんぽ）広島支部）

○取り組みの背景および目的

全国健康保険協会（協会けんぽ）広島支部が実施している「糖尿病重症化予防プログラム」は、「CKD 診療ガイド 2012（日本腎臓学会編）」における腎機能障害の重症度を表す GFR（糸球体濾過量）区分が、G2（軽度低下）から G4（高度低下）である者を対象としている。現在のレセプト傷病名からは、腎機能障害の重症度（G2～G4）の区分が判別できない。そのため、対象者を抽出するためには、レセプトに記載されている投薬内容・診療行為から推定する必要がある。

○取り組みの内容

CKD（慢性腎臓病）の重症度を区分するため、株式会社データホライゾンが開発した医療費グルーピング技術と傷病管理システムにより、糖尿病傷病名のあるレセプトの投薬内容・診療内容から GFR 区分を推定し、対象者抽出を行った。

医療費グルーピング技術とは、複数の傷病名が付与されたレセプトにおいて、個々の投薬・診療内容が、どの傷病名に関連しているかをグルーピングする技術である（図 1）。

○効果

「糖尿病重症化予防プログラム」参加者で、腎機能を判断する eGFR 値（推算糸球体濾過量；血清クレアチニンと年齢、性別から計算）により、抽出した GFR 区分の精度検証をしたところ、抽出時点での完全なる GFR 区分に一致した者は 5 割程度であったが、抽出者の 9 割は G2～G4 に属しており、対象者抽出の目的は達成していた。

○費用および財源

1 ヶ月あたり約 50 万件のレセプトをデータホライゾンに 3 ヶ月分委託処理してもらってかかった総費用は、1,536,998 円（税込）であった。（平成 24 年度契約価格）

【事例 3】

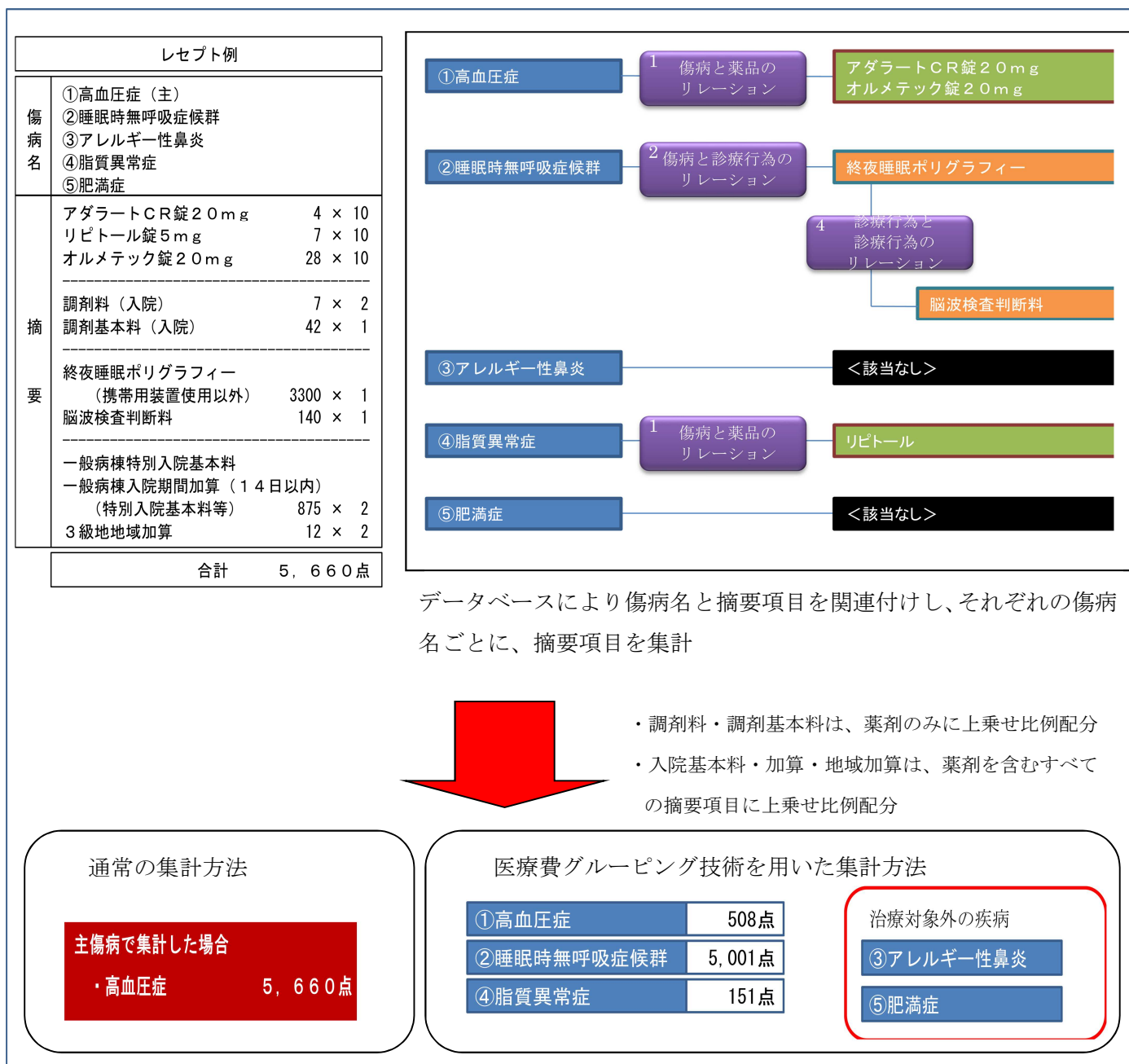


図 1. 医療費グルーピング技術の概要

○事業評価

医療費グルーピング技術を用いた医療費分析

医療費適正化に向けて、レセプトを用いた様々な医療費分析が試みられているが、1枚のレセプトにおける疾病ごとの医療費を把握することはできていない。

現在の医療費分析は、レセプト点数すべてを、主傷病名にかかる医療費として集計しているため、必ずしも正確ではないことが課題である。データホライゾンの医療費グルーピング技術を用いることで、レセプトに記載された傷病名ごとにレセプト点数を配分することができ、より正確な医療費分析が可能になると思われる。

平成 25 年度、当支部においては、平成 23 年度から実施している「糖尿病重症化予防プログ

【事例3】

ラム」に関する医療費効果分析を行う予定である。本分析においては、医療費グルーピング技術を用いて、複数の傷病名が付与されたレセプトからも、糖尿病に関する医療費のみを集計することとしている。

○全国健康保険協会（協会けんぽ）広島支部情報

- ・ 被保険者数（平成 25 年 5 月末現在）： 569, 457 名（男性 61. 9%、女性 38. 1%）（平均年齢 44. 2 歳）
- ・ 加入者数（平成 25 年 5 月末現在）： 1, 010, 890 名
- ・ 事業所数（平成 25 年 5 月末現在）： 43, 379 事業所（平成 25 年 3 月末現在で 10 名未満事業所が 78%）
- ・ 保険料率（平成 25 年 3 月末現在）： 100. 3%